



2026年1月26日

## OKUMA TECH、大熊町発企業として J-Startup TOHOKU 初選定

2026年1月26日、OKUMA TECH 株式会社は、**大熊町生まれの企業として初めて、J-Startup TOHOKU に選定されたことを発表します。**大熊町で誕生した企業として、全国版 J-Startup 含めて初めてのことになります。今回新たに追加された7社で44社が選定されていますが、J-Startup TOHOKU では OKUMA TECH が初の水素ベンチャーとなります。



### J-Startup TOHOKU とは

2018年から始まった経済産業省のスタートアップ支援プログラム「J-Startup」の東北地域版として、東北6県の有望なスタートアップを選定、集中支援する取り組みです。自治体、支援機関、金融機関、企業が連携し、事業成長や全国、海外展開を後押しします。東北地域におけるイノベーション創出や産業競争力強化を目的としています。

公式選定情報: [tohoku.meti.go.jp/s\\_shinki/topics/260115.html](http://tohoku.meti.go.jp/s_shinki/topics/260115.html)

OKUMA TECH は、2021年の創業以来、重量輸送のための水素燃料電池ドローン、水素ステーション用減圧装置、国産セルスタック、小型の可搬式水素燃料発電装置、小型の水素製造装置などを次々と研究開発してきました。また、福島県およびエネルギーエージェンシーふくしまの協力により、福島県浜通り地域発の「小さな水素社会」の構築を目指す産学官連携組織の立ち上げと運営も行っています。

今回の J-Startup TOHOKU の選定では、「従来型の液化水素製造技術、運搬、貯蔵、そして高圧ガス水素運用で直面しているさまざまな課題を解消するための、粉体水素キャリアの研究開発およびその事業化」を評価されました。当社は、さらなる技術革新と、福島発、日本発での世界的先端エネルギー事業開発を邁進して参ります。

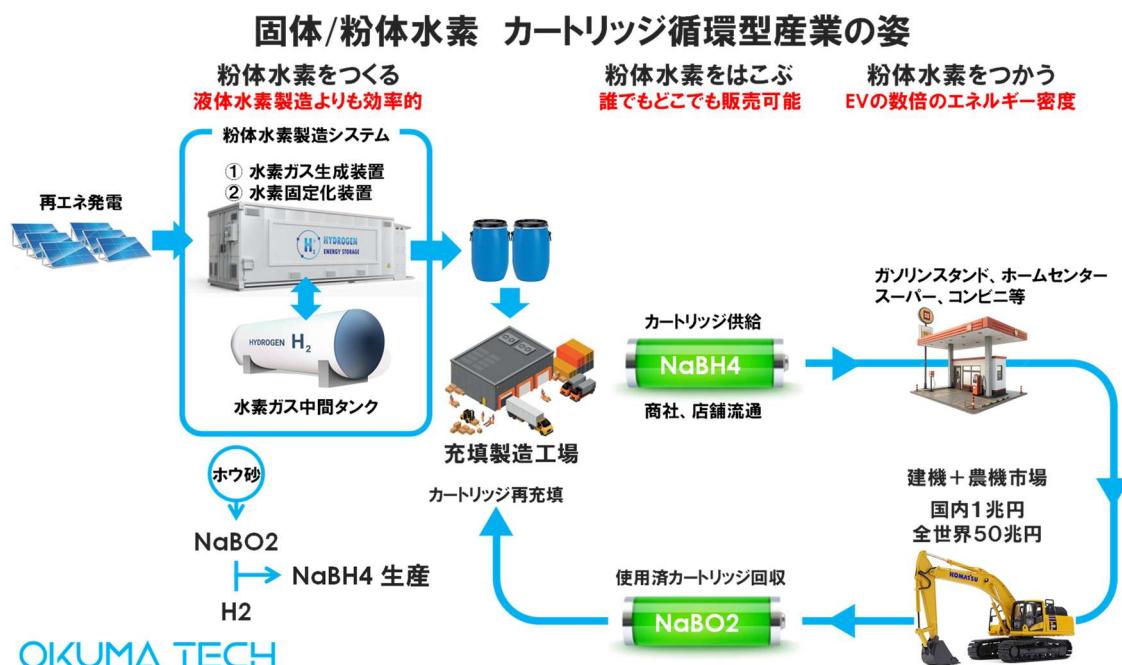
この選定にあたり、OKUMA TECH の李顕一代表は、「大熊町から世界ベンチャーを誕生させる思いで創業し、いよいよその準備年として位置付けた2026年の始まりに、当社がもっとも望んでいた制度に選定いただき世界展開を加速できることに、深く感謝申し上げます」とコメントしました。

また、大熊町の吉田淳町長は、「本日、町長室において中央産業拠点への立地協定を締結させていただきました。OKUMA TECH は、大熊インキュベーションセンターからスタートし、CREVA おおくまに移転し、そしていま中央産業拠点で工場をつくる。大熊町が理想としていたモデルです。」とコメントしました。

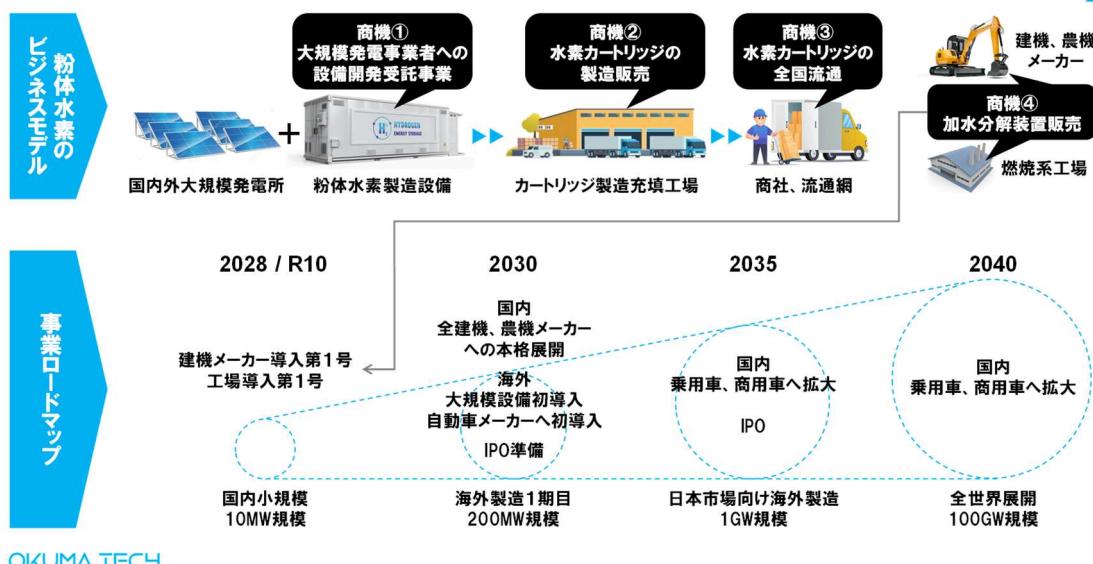
また、福島県次世代産業課の永井主幹は、「福島県としては、水素産業の推進に力を入れています。その中でも OKUMA TECH と取り組む小さな水素社会構築は重要なものです。J-Startup TOHOKU に選定されたことは県としても喜ばしい。」とコメントしました。



2026年1月26日 大熊町での記者会見写真



## 次世代水素キャリア「水素化ホウ素ナトリウム」 粉体水素の产业化



本プレスリリースに関するお問い合わせ

OKUMA TECH 株式会社 担当： 川口 090-5518-2000 mk@okumatech.com